

Mother to Mother SHIONOGI Project

コミュニティエンパワメントによる母子保健推進プロジェクト
(ガーナ共和国イースタン州アッパーマニャクロボ郡)
年次報告書(1 年次)

2024 年 7 月 30 日

(報告対象期間:2023 年 6 月～2024 年 5 月)

公益財団法人ジョイセフ

東京都新宿区四谷本塩町 12 - 3 A O I ビル 3 階

Tel: 03-5312-5090 Fax: 03-5312-5087

URL: <https://www.joicfp.or.jp/jpn/>

女性 . 選択できる世界を . ジョイセフ



1. プロジェクト概要

プロジェクト名	コミュニティエンパワメントによる母子保健推進プロジェクト
国／プロジェクト対象地	ガーナ共和国イースタン州アッパーマニャクロボ郡の 5 亜郡(アセセワ、アニャボニ、アカテン、セクスア、オトロクパー)
報告対象期間	2023 年 6 月～2024 年 5 月(1 年間)
対象人口／裨益者	72,160 人 (地域保健ボランティアおよび OTC 薬の売り手 105 人、医療従事者 71 人、地域保健管理委員会 74 人含む)
予算	24,336,167 円
プロジェクト目標	プロジェクト地区における妊産婦及び 5 歳未満児の健康を改善する
成果	①母子保健サービスの質が向上する ② 地域保健ボランティアや OTC 薬の売り手による啓発教育活動を通して、地域住民の母子保健の知識が向上する ③ 自立発展に向けた母子保健の地域サポート体制が強化される

2. 背景と概要

ガーナの妊産婦死亡率は、出生 10 万あたり 263 件(2020 年)で、日本の約 66 倍です。本プロジェクトは、特に母子保健の状況が深刻なアッパーマニャクロボ郡で妊産婦と新生児の健康改善を目的とし 2023 年 6 月から実施しています。この地域は、ジョイセフが 2021 年から 2022 年にかけて地域に根ざしたセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(SRHR)プログラムを実施した地域でもあります。

ガーナの高い妊産婦死亡の背景には、保健医療施設へのアクセスの課題があります。2022 年の郡保健情報管理システム(DHIMS II)によると、プロジェクト地域の専門技能者による出産助助(施設分娩)の割合は約 45%と大変低くなっています。これは自宅から医療施設への距離が遠いなど、物理的な距離が障害になっていることが一因です。また、医療施設の多くは、プライバシーを確保するための十分なスペースがなく、設備が不十分で分娩ケアを提供できていません。このような地域では、妊婦が出産予定日より前に来て滞在できる宿泊施設を、分娩ケアを提供する医療施設に併設することでアクセスの問題が解決することができます。施設分娩を増やすためには産前健診、出産、産後のケア、および家族計画についての知識を広め、施設の利用を促すことも重要です。また、啓発を受けた地域の妊産婦が施設に足を運んだ際に、質の高い医療サービスを提供できる体制になれば妊産婦の健康改善にはつながりませんし、継続してサービスを受ける意欲を削ぐことになります。

衛生面に関しては、プロジェクトの基礎調査によると、水と衛生に関する正しい知識を持つ対象地区の住民の割合は 45.0%、適切な手洗いを実践している住民の割合は 34.1%であることが判明しました。5 歳未満の子どもの健康、特に子どもの下痢症を減らすために、適切な手洗い、完全母乳哺育と栄養教育を母子保健事業に含める必要があります。

本プロジェクトでは、医療施設への出産時のアクセスの問題を解決すべく、ガーナ初の試みとしてアップーマニャクロボ郡に妊婦待機所を設置しました。また、地域住民と OTC 薬の売り手をボランティアとして養成しています。研修を受けた地域保健ボランティアや OTC 薬の売り手は、地域に母子保健と SRHR の情報を伝え、妊産婦や子どもを必要に応じて医療施設に紹介します。医療従事者に対しては、利用者に優しい保健医療サービス(クライアントフレンドリーサービス)の提供と、子どもの下痢症や母子保健に関する親への啓発教育の研修を実施しています。地域保健管理委員会のメンバーに対しては、プロジェクト期間終了後の地域住民による母子保健活動の維持継続のため、収入創出活動などでサポートできるよう能力強化を行います。

3. プロジェクト目標と進捗状況

プロジェクト初年度には、母子保健サービスへのアクセス向上に一定の改善が見られました。2022 年と 2023 年のデータ(DHIMS II 2022 と DHIMS II 2023)を比較するとプロジェクトは 2023 年 6 月から 12 月までの 7 ヶ月間の実施であったにもかかわらず、既にポジティブな変化が現れ始めています。4 回以上産前健診を受けた女性の割合は 80%から 81.7%に増加、専門技能者による出産介助率も 45%から 51.3%に改善されました。さらに、地域保健ボランティアおよび OTC 薬の売り手の活動の継続率も 92%から 100%に向上しました。

いくつか改善が見られない指標もありました。これは、プロジェクトが 2023 年 6 月に開始され、地域保健ボランティアおよび OTC 薬の売り手の研修が 2023 年の後半(9 月と 10 月)に行われたことが原因と考えられます。2022 年は、ジョイセフが同地域で SRHR プロジェクトを実施していたため、地域保健ボランティアの活動が活発でした。しかし、2023 年に本プロジェクトが始動するまでの半年間は地域活動が減少しました。プロジェクトが 1 年間フルに実施される 2024 年には改善が期待されます。

特に家族計画については 57%から 51.7%に減少していますが、このデータに関してはガーナ保健サービスが指標の定義を変更したことに起因しています。2022 年のデータには家族計画の指標に保健施設や地域保健ボランティア、OTC 薬の売り手が配付したコンドームの数が含まれていましたが、ガーナ保健サービスは 2023 年からコンドームの数を家族計画の指標に含めないことになりました。地域保健ボランティアや OTC 薬の売り手の活動のインパクトを正確に把握するため、彼らの啓発活動により普及したコンドームの数を把握することは重要であるため、プロジェクトでは、2 年目からはカップルへの年間避妊法総供給量(CYP=Couple Years of Protection)も記録することにしました。

プロジェクト地区(UMK の 5 亜郡)のデータ

	指標	DHIMS II 2022 (2022 年 1 月-12 月)	DHIMS II 2023 (2023 年 1 月-12 月)	プロジェクトの 目標値(2026)
1	産前健診受診率(4 回以上)(%)	80%	81.7%	90%
2	専門技能者による出産介助(%)	45%	51.30%	60%
3	産後健診受診率(48 時間以内)(%)	98%	97.8%	100%
4	家族計画サービスを受けた人の割合(%)	57%	51.7%	60%
5	5 歳未満の子どもの下痢症の件数/5 歳未満の子どもの下痢症治療数(経口補水液、亜鉛)(#)	1,297/1,297	1,363/1,363	750/750
6	5 歳未満の子どもの下痢症の割合(%)	11.5%	11.8%	5%

7	予防接種を完遂した子ども(12～23 カ月齢)の割合(%)	99.2%	92.1%	100%
8	地域保健ボランティアや OTC 薬の売り手などに保健施設へ紹介された母子の数(リファラル数)(#)	2,754	1,793	3,600
9	手洗いの実施率(*1)	34.1%	–	55%
10	生後3か月時点の完全母乳哺育の実施割合(%)	99%	99.9%	–
10-a	生後6か月までの完全母乳哺育の実施割合(%)(*1)	77.2%	–	80%
11	住民の母子保健および子どもの下痢症などに関する知識(*1)	45%	–	70%
12	アドボカシーにより政府から得られた母子保健に係るコミットメント・ガイドラインや政策に反映された提言数(*2)	–	–	3
13	地域保健ボランティアや OTC 薬の売り手の継続率	92%	100%	100%
14	地域保健ボランティアや OTC 薬の売り手などによる母子保健の啓発活動に参加した住民の数(#)	10,162	8,635	10,300
15	母子保健サービスを受けた女性の満足度(*3)	–	–	–
16	妊婦待機所の利用者数(*4)	0	0	150
17	妊婦待機所での出産数(*4)	0	0	120
18	ママパパクラス参加人数(*4)	0	0	3,640
19	家族計画サービスによって提供された避妊数を測る指標	5,039.9	4055.05	6,047.88

*1.本データは DHIMSII にないため、基礎調査データを記載

*2.本データは DHIMSII にないため、報告書を基に記載予定

*3.本データは DHIMSII にないため、基礎調査（2024 年 10-12 月中に実施予定）と最終調査で測定予定。現時点で数値は未定

*4.本データはプロジェクトで新規導入した活動のデータのため、DHIMS II にないため、郡保健局の毎月の記録から算出。

4. プロジェクト進捗状況

4-1. プロジェクト計画

子どもの下痢症予防を含む質の高い母子保健サービスを改善するために、プロジェクトは以下の3つの成果を達成するように設計されています。成果 1) 母子保健サービスの質の向上、成果 2) 母子保健に関する地域住民の知識と意識の向上、成果 3) 母子保健のための地域支援ネットワークの強化です。それぞれの成果に対して以下の活動が計画されています。

1. 母子保健サービスの質を向上させるために、医療従事者の研修を実施し、妊婦待機所、産科棟、診療所の建設、これらの施設への医療資機材や家具の設置を行います。
2. 母子保健に関する地域住民の知識と意識を向上させるために、地域保健ボランティアおよびOTC薬の売り手を養成し、効果的な健康教育および社会行動変容コミュニケーション活動を実施します。
3. 母子保健のための地域支援ネットワークを強化するために、地域保健管理委員会の能力を強化し、収入創出活動を通じてプロジェクトのインパクトが持続するようにします。地域保健管理委員会の定期的な会議やオリエンテーションを実施し、持続可能な地域保健活動と収入創出活動の計画策定、実施、そのレビューを行います。

4-2.活動計画 *新たに追加された項目

1年次	2年次	3年次
2023年6月 - 2024年5月	2024年6月 - 2025年5月	2025年6月 - 2026年5月
全体に係る活動 0-1 基礎調査 0-1 基礎調査結果の共有 0-1 スタートアップ会議の開催 0-2 モニタリング評価計画の策定 0-2 半期・年次報告書 会議開催 0-8 定期モニタリング 成果1 1-1 保健医療従事者を対象とした母子保健・子どもの下痢症・ママパパクラス研修(接遇改善研修と1年次に入れ替え) (*) 1-2 妊婦待機所の建設の設置整備 1-5 妊婦待機所の住民参加型ペインティングワークショップ開催 1-6 妊婦待機所開所式 1-7 妊婦待機所の運営維持に関するワークショップの開催 成果2	全体に係る活動 0-2 半期・年次報告書 0-3 プロジェクト運営委員会開催 0-5 サステナビリティプランの策定のためのワークショップ 0-8 定期モニタリング 成果1 1-1 保健医療従事者を対象とした接遇改善研修の実施(クライアントフレンドリーサービス研修)(ママパパクラス研修と2年次に入れ替え) (*) 1-3 分娩棟の建設および基礎的保健医療資器材の供与 1-4 診療所と井戸 (*) の建設および基礎的保健医療資器材の供与 1-5 住民参加型ペインティングワークショップの開催 (*) 1-6 分娩棟および診療所の開所式 成果2 2-1 子どもの下痢症の予防・対	全体に係る活動 0-2 半期・年次報告書 0-3 プロジェクト運営委員会開催 0-5 サステナビリティプランのパイロットの実施と見直し 0-6 最終調査の実施 0-7 最終共有ワークショップの開催 0-8 定期モニタリング 成果1 1-1 医療従事者再研修 1-4 医療従事者宿舍の建設 (*) 1-5 医療従事者宿舍のペインティングワークショップ (*) 1-6 医療従事者宿舍の開所式 (*) 成果2 2-1 地域保健ボランティア・OTC薬の売り手再研修

2-2 地域保健ボランティア (母子保健推進員)・OTC の売り手の育成研修	処方法を含めたコミュニケーション(SBCC)戦略の策定研修(子どもの下痢症を主なテーマに) 2-3 コミュニケーション戦略に基づいた教材制作(既存の教材(母子手帳など)レビュー含む) 2-4 社会行動変容コミュニケーション(SBCC)活動計画策定 2-5 社会行動変容コミュニケーション(SBCC)活動計画に基づいた啓発教育活動の実施 成果 3 3-1 地域保健管理委員会(CHMC)の定期会合およびコミュニティ活動計画作り(収入創出活動含む) 3-2 地域保健管理委員会(CHMC)によるサポート体制強化のためのオリエンテーション	2-5 社会行動変容コミュニケーション(SBCC)活動計画に基づいた啓発教育活動の実施 成果 3 3-2 地域保健管理委員会(CHMC)によるサポート体制強化のためのオリエンテーション
--	--	--

4-3. 進捗状況

期間: 2023 年 6 月 1 日 - 2024 年 5 月 31 日

年間計画	進捗状況
0. 全体に係る活動	
0-1 基礎調査	2023 年 7 月に、5 つの亜郡における新生児を含む母子保健サービスの利用状況、新生児を含む母子保健、子どもの下痢症、および WASH(水と衛生)に関する知識や行動の状況を把握するための基礎調査が実施されました。この調査では、18 歳から 49 歳の産後女性 487 人を対象とし、定量的および定性的な方法が用いられました。結果はプロジェクト活動の指針となり、プロジェクトの成果を測るために使用されます。2024 年 3 月には、プロジェクトの関係者に対して基礎調査結果を発表し、プロジェクト地域の母子保健状況と課題の改善策に関して認識を共有しました。
0-1 スタートアップ会議の開催	2023 年 7 月 6 日にはプロジェクトのスタートアップ会議が開催され、郡保健局、伝統的リーダー、地域保健管理委員会メンバー、ジョイセフスタッフを含む 45 人が参加しました。会議では、本プロジェクトの重要性が共有され、関係者間の協力関係を確認しました。

0-2 モニタリング評価計画の策定・半期・年次報告書	プロジェクトのモニタリングのためのデータ収集ツールである、母子保健/SRH サービス統計の追跡シート、地域保健ボランティアおよび OTC 薬の売り手によるリファール(医療施設への紹介)や啓発活動のためのデータ収集シートが作成されました。データ収集は郡保健局と協力して毎月行われます。プロジェクトの進捗は四半期ごとに塩野義製薬に報告されます。
1. 母子保健サービスの質が向上される	
1-1. 保健医療従事者を対象とした母子保健・ママパパクラス研修の実施	2024 年 1 月には、医療従事者向けに、母子保健および SRHR に関する研修と「ママパパクラス」実施方法についての研修を行い、10 名が参加しました。この研修では、子どもの下痢症を減少させるための完全母乳育児や、母子保健における男性の参加などの内容を扱いました。研修後、7 つの施設がママパパクラスの開催を開始し、2024 年 6 月末までに女性 88 人、男性 54 人が参加しました。
1-2. 妊婦待機所の建設の設置整備	妊婦待機所は、ジョイセフのザンビアプロジェクトの「妊婦待機所設計ガイドライン」を参考に設計され、寝室(5)、キッチン(1)、ラウンジ(1)、共同のシャワールーム(2)とトイレ(2)、倉庫を設置しました。現地の建設コンサルタントによる監督のもと、2023 年 8 月に建設が開始され当初の計画どおり 2023 年 12 月に完了しました。その後、備品を整備し、2024 年 2 月に運営を開始しました。一部屋にベッドが 2 床あり、一部屋に 2 人の妊産婦が滞在できるようになっており、最大 10 名が滞在できます。
1-5. 住民参加型ペインティングワークショップの開催	2024 年 1 月に地元の若者 17 人が参加するペインティングワークショップが開催されました。妊婦待機所の壁に、母子保健、手洗い、下痢症予防および家族計画のメッセージが住民主体のデザインで描かれました。このワークショップでは、施設をフレンドリーで魅力的にするだけでなく、地域住民が建設にかかわることで妊婦待機所への理解とオーナーシップ、母子保健についての認識を高めることを目的としました。
1-6. 妊婦待機所の開所式	2024 年 2 月に地域の保健当局、地域住民の代表を招待し、妊婦待機所の開所式を実施しました。開所式では、アカテンのチーフがプロジェクトと妊婦待機所の維持管理への協力を約束し、地域住民の関わりを強固なものにしました。開所式当日には参加者から、妊婦待機所の維持管理の資金として、2,297GHC (約 160USD)の寄付が集まり、2,000GHC (140USD)の寄付が約束され、妊婦待機所の維持管理への意欲の高さが示されました。
1-7. 妊婦待機所の運営維持に関するワークショップの開催	2024 年 1 月、妊婦待機所の利用に関するガイドラインを作成するためのワークショップが開催されました。このワークショップには、地域保健管理委員会および地区保健局を代表する 32 人が参加しました。ワークショップでは、妊婦待機所のあるアカテン地区の地域保健管理委員会、医療従事者が郡保健局と協力し妊婦待機所の活動と維持管理を行うことが合意されました。地域保健管理委員会が活用するガイドラインの草案が作成され、最終化されました。
2. 地域住民の母子保健の知識が向上する	

2-2.地域保健ボランティア・OTC 薬の売り手の育成研修	2023 年 9 月、新規地域保健ボランティアの研修で 26 人の新たな地域保健ボランティアが育成されました。2023 年 10 月には、前プロジェクトの地域保健ボランティアおよび OTC 薬の売り手 79 人に対してオリエンテーションおよび再研修が実施されました。研修では、産前健診、専門技能者による出産介助、産後のケア、家族計画、子どもの下痢症、地域住民の参加などの重要なトピックが扱われました。研修の前後にこれらの内容に関する理解度の試験を実施したところ、研修後の点数が大幅に向上し、研修の成果が認められました。育成されたボランティアには、活動の際着用するのユニフォーム(T シャツ)を配付しました。ユニフォームは、ボランティアのプロジェクトに対するオーナーシップが高まるだけでなく、プロジェクトの視認性が向上し、信頼と認知度が高める効果があります。研修後、地域保健ボランティアは地域住民 10,718 人に教育を行い、2,631 人を保健医療施設に紹介し、保健啓発活動の拡大が顕著に認められました。
-------------------------------	---

5. 基礎調査結果

基礎調査の概要

基礎調査は、長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス学研究科の相賀裕嗣教授の指導の下、地元のコンサルタントによって実施されました。5 歳未満の子どもを持つ 18 歳から 49 歳の産後の女性 487 人を無作為に抽出し、量的および定性的な調査を組み合わせて行いました。この調査では、5 つの市郡における母子保健（新生児含む）および家族計画サービスの利用状況、母子保健、子どもの下痢症、そして水と衛生（WASH）に関する知識、意識、行動について調査しました。また、健康情報の入手先、母子保健サービスの利用や清潔さを保つ行動を妨げる原因についても調査しました。

指標	ベースライン	調査によるコメント
1. 産前健診受診率（4 回以上）（%）	84.8	質の高い妊婦ケアへのアクセスを強化する: ● 妊婦に対し居住する地域で利用可能な交通手段を提供して交通問題に対処する ● 地元の交通業者との提携を検討する ● 医療施設が国民健康保険制度（NHIS）による無料の妊産婦ケアを厳守するように促し、妊婦の費用負担を減らす ● 産前健診の早期開始の利点と、開始が遅れることによる潜在的リスクに焦点をあてた健康教育プログラムを実施する
専門技能者による出産介助（%）	85.6	分娩ケアを強化する: ● 施設サービスを改善し、妊婦にとって利用しやすく歓迎される環境を整えることで、専門技能を持たない伝統的な助産師への依存を減らす ● 妊婦を国民健康保険制度（NHIS）につなげ、出産にかかる資金問題を解決する ● 地域保健ボランティアによる健康教育を通じて、施設分娩に対する地域住民の誤解を解消する 伝統的助産師と医療従事者間の連携を強化する:

		● 地域に根差す伝統的助産師を研修し、妊婦が安全な分娩ケアを医療従事者から受けるために保健医療施設を紹介できるようにする
産後健診受診率(48 時間以内)(%)	44.9	包括的な産後ケアを推進する: ● 出産後2日以内に女性を訪問しフォローアップする産後ケアプログラムを企画・実施する ● 早期産後ケアの重要性についての認識を高めるために、地域に根差した啓発活動、健康教育を実施する
家族計画サービスを受けた人数の割合 (%)	22.2	家族計画を促進するための戦略を実施する: ● 地域住民に対し、家族計画方法に関する誤解を払拭する啓発教育活動を実施する ● 家族計画についての話し合いや意思決定への配偶者/パートナーの参加を促す ● 地元の宗教、伝統文化の指導者を政策提言活動に関わってもらい、宗教・文化の壁を乗り越える ● 多様なニーズに対応するために幅広い避妊方法(インプラント、注射薬、コンドームなど)の利用を働きかける
5歳未満児の下痢症発症割合 (%)	21.4	衛生習慣の改善: ● 衛生キャンペーンなどで、食事の前後、食べ物の準備の前、子どもに食事を与える前後の手洗いや、手洗い時の石けんの使用を促進する ● 子どもの排泄物の適切な処理、屋外排泄を防止を進めるため、地域に衛生施設(公衆トイレなど)を設置するよう働きかける
生後6か月までの完全母乳哺育の実施割合 (%)	77.2	完全母乳哺育の推進: ● 生後6か月間の完全母乳哺育の重要性を伝える母親向けの母乳哺育教育プログラムを実施する ● 地域で母親同士が完全母乳哺育の経験を共有する母乳育児サポートグループを設立する ● 医療従事者が産後ケア訪問中に完全母乳哺育をサポートすることを奨励する
住民の母子保健および子どもの下痢症などに関する知識 (%)	45.0	衛生の知識を広める ● 食事の前後、食べ物の準備の前、子どもに食事を与える前後など適時の手洗いと石けんの使用を広めるキャンペーンを行う
手洗いの実施率 (%)	34.1	-

調査によるその他の提案

- 地域、宗教、文化の指導者と協力する
- 地域に根差した健康教育活動を実施する
- 積極的な地域住民の参加を促す

● モニタリング評価とリサーチを強化する

6. 実施計画

活動	第1 四半期			第2 四半期			第3 四半期			第4 四半期		
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
0. 事業全体にかかる活動												
0-1 基礎調査												
0-1 スタートアップ会議の開催												
0-2 モニタリング評価計画の策定・半期・年次報告書												
1. 母子保健サービスの質が向上する												
1-1 保健医療従事者を対象とした母子保健・子どもの下痢症・ママパパクラス研修												
1-2 妊婦待機所建設												
1-5 コミュニティ参加型ペインティングワークショップ開催・												
1-6 開所式												
1-7 妊婦待機所の運営維持に関するワークショップの開催												
2. 地域住民の母子保健の知識が向上する												
2-1 母子保健プロモーター・OTC 薬の売り手研修												

1-2 建設が9月開始が変更になり8月開始となりました。

7. プロジェクトの持続可能性

1. 保健行政との協力

ジョイセフはガーナ保健サービス(GHS)の方針に基づき、州および郡保健局と密に連携してプロジェクトを実施しています。プロジェクトが終了しジョイセフが撤退したあとは、活動は現地の保健行政に引き継がれます。例えば、本プロジェクトの費用では施設の建設などインフラを整備しますが、保健局はそれぞれの施設に医療従事者を配置し、今後の運営管理を担います。プロジェクト期間中の密な連携により、保健行政のプロジェクトへのオーナーシップが育まれ、プロジェクト終了後も活動が継続することを目指しています。

2. 地域住民の能力強化

このプロジェクトは、活動が持続するために地域住民の能力強化に重点を置いています。研修やワークショップを通じて、地域保健ボランティア、OTC 薬の売り手、医療従事者、地域保健管理委員会が保健

活動に必要な知識とスキルを身につけ、それぞれにチームワークを発揮し相互にサポートしあう体制をつくります。

3. 地域保健システムの強化

ジョイセフは新しいシステムを導入するのではなく、関係者の能力強化、活動のレビュー、課題の特定と対策などを通じて、既存のシステムを強化します。また、本プロジェクトは、地域保健ボランティア、OTC薬の売り手、医療従事者、地域保健管理委員会といった地域の人々が、様々な活動や重要な意思決定に主体的に関わる仕組みにしています。例えば、地域保健管理委員会はプロジェクトの継続のための収入創出活動などの計画を作り、プロジェクト終了後も地域保健活動の継続をサポートする予定です。参加型にすることで地域全体の支援、オーナーシップ、責任感を醸成し、プロジェクトが支援する施設などのインフラの長期的な維持管理が可能となります。

8. 2年次、3年次の実施計画

2年目には、質の高い出産ケアを提供するために、アカテン保健センターに産科棟が建設されます。また、地域のプライマリーヘルスケアの質の向上のため、セクスア地区のスタボンに診療所と井戸を建設します。医療従事者に対しては、利用者中心のサービスの提供を目指し、利用者に優しい保健医療サービス(クライアントフレンドリーサービス)に関する研修が実施されます。建設予定の産科棟や診療所では、1年次同様に、地域住民のオーナーシップを醸成するペインティングワークショップを実施し、母子保健を推進するメッセージや絵を壁に描いてもらいます。その後、建設された産科棟と診療所は、開所と同時に郡保健局に引き渡されます。地域保健ボランティアやOTC薬の売り手による保健活動は、地域住民の健康知識と意識を向上のためさらに強化されます。彼らの活動のためのコミュニケーション戦略が策定され、啓発ツールが作成されます。また、地域保健管理委員会の定期会合と能力強化活動を通じて地域によるプロジェクト支援を強化します。

9. プロジェクト関係者、裨益者の声

リジャイナ・ナーテ・テイエさん、川向うの地域に住む妊婦

リジャイナさんは過去に5人の子どもを全て自力で出産し、そのうち3人はアカテン保健センターに行く途中、ボルタ湖を渡るボートで出産しました。出産後に出血があったときには、自宅で地元の薬草を使いました。リジャイナさんの家からアカテン保健センターに行くには徒歩とボートで4時間かかります。救急の際にタクシーなどを利用する経済的な余裕はありませんでした。プロジェクトで妊婦待機所が建設された後、リジャイナさんは事前に妊婦待機所に滞在してアカテン保健センターで無事出産しました。彼女の出産は、妊婦待機所を利用した出産第一号となりました。彼女は施設で医療従事者の介助で安全な出産ができてとても喜んでいました。リジャイナさんの出産後、さらに22人の赤ちゃんが妊婦待機所を利用して生まれています。



デブラさん(27 歳)、地域保健ボランティア

3 人の子どもの母親でもあるデブラさんは、現在、本プロジェクトの地域保健ボランティアとしてボランティア活動をしています。保健センターで看護師の補助をやっていた時、地域保健ボランティアの研修に参加したらどうかと勧められたのがきっかけでした。プロジェクトに関わることが生活に様々な恩恵をもたらすと思い、地域保健ボランティアになることを決めたそうです。研修では、最低 4 回の産前健診を受けること、施設で出産すること、6 ヶ月間の完全母乳育児、子どもに食事を与える前やトイレ使用後の手洗い、産後健診に赤ちゃんを連れて行くこと、家族計画の重要性などを学びました。デブラさんは、家庭訪問の際に自分のアドバイスで女性たちが行動を変えていくことに喜びを感じ、この活動に誇りを持っています。また、以前は、ボルタ川を渡ってくる女性たちはボートで出産したり、保健センターに間に合わなかったりして、母子が死に至ることが多かったので、妊婦待機所の設置が女性たちの命を救うと期待していると答えてくれました。



リタ・アンソング(34 歳)、川向うの地域の母親

リタ・アンソングさんは川向こうの地域(アカテン亜郡アダコペ)から保健施設で出産するために妊婦待機所に来ました。妊婦待機所に滞在中、予定日を過ぎてでも生まれないため、アカテン保健センターの助産師が診察したところ、リタさんは呼吸に問題がありその影響で出産に高度な医療が必要とわかり、アセセワ公立病院に紹介されました。アセセワ公立病院で帝王切開を行いました。生まれた新生児は心臓に問題があり、コフォリドゥアの地域病院に紹介されました。その後、赤ちゃんの状態から、アクラの高次病院に行くように言われたが、結局はリタさんは、行きませんでした。赤ちゃんの容体は思わしくなかったため、帰宅せず、母子ともに産後も妊婦待機所に戻り滞在しました。再度、新生児の容体が悪化し、アセセワ病院に送られましたが新生児はアセセワ病院で亡くなりました。リタさんは、それでも、妊婦待機所に滞在することで助産師が症状を判断でき、必要なことを最大限できたので滞在してよかったと語りました。妊婦待機所から帰宅後は、妊婦待機所の利用経験者として、川向うの女性たちに妊婦待機所の利用の重要性を伝えています。



添付 1. プロジェクト実施地域地図

[illegible]

添付 2. 母子保健及び子どもの下痢症に関する保健サービス利用の記録データ
(プロジェクト地区の 5 亜郡のデータ)

データリソース: アッパーマニャクロボ郡保健局

1 年次(2023 年 6 月-2024 年 5 月)	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	合計
産前健診 新規登録	134	147	157	148	157	149	134	162	164	138	165	148	1,803
産前健診 4 回以上	102	121	147	141	146	138	141	161	143	126	141	178	1,685
専門技能者による出産介助	116	102	98	97	112	101	79	108	105	103	107	109	1,237
産後健診	116	102	98	100	113	139	84	112	111	105	110	114	1,304
家族計画(新規)	191	222	191	182	413	249	165	241	255	167	260	196	2,732
家族計画(継続)	227	142	201	160	1108	845	208	782	352	367	419	405	5,216
家族計画(合計)	418	364	392	342	1521	1094	373	1023	607	534	679	601	7,948
カップルへの年間避妊法総供給量(CYP)	279	318.7	288.2	548.2	530	425.7	263.7	395.6	364.7	271.1	282.4	307.7	4,275
子どもの下痢症 5 歳未満児の件数	115	96	118	82	91	94	71	132	89	97	174	146	1,305
子どもの下痢症 5 歳未満児の治療件数(ORS,ZINC)	115	96	118	82	91	94	71	132	89	97	174	146	1,272
予防接種完遂した子ども(12~23 カ月齢)の割合								85.8	87.7	87.1	93.4	116.8	471
妊婦待機所の利用者数									2	1	4	17	24
妊婦待機所での出産数									2	1	4	16	23
ママババクラス参加人数										36	50	56	142

添付3:地域保健ボランティア・OTC 薬の売り手による啓発活動と保健施設へのリファerralの数
(プロジェクト地区の5 亜郡のデータ)

データリソース: アッパーマニャクロボ郡保健局

1 年次(2023 年 6 月- 2024 年 5 月)			6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	合計
ボランティア による啓 発活動	ボラン ティアが情 報を提供 した人数	地域保 健 ボラ ン ティ ア	522	547	497	557	641	677	721	785	721	697	701	689	7,755
		OTC 薬の売 り手	102	152	124	103	193	254	253	382	332	372	304	392	2,963
		合計	624	699	621	660	834	931	974	1167	1053	1069	1005	1081	10,718
	情報を提供した妊 婦の人数						57	72	68	72	64	50	46	51	480
	情報を提供した産 後の女性の人数						38	53	71	84	76	58	81	76	537
	家庭訪問の件数		385	475	362	382	412	501	525	611	591	507	619	576	5,946
	情報を提供した男 性の人数		213	204	185	138	201	221	214	298	303	209	211	242	2,639
	情報を提供した若 者の人数 (15-24 歳)		115	154	165	114	250	378	362	276	378	221	321	302	3,036
	ボラン ティアの活動維 持	活動している地域保 健ボランティアの数	71	78	78	78	106	106	106	106	105	106	106	106	1,152
		連携 OTC 薬店舗数	13	13	15	13	15	15	15	15	13	15	15	15	172
地域サポ ートの強化	支 援 型 監 督 指 導 (SSV)に参加した地 域保健管理委員 会の数		0	21	13	15	16	23	15	21	21	17	18	18	198
	社会行動変容コミュ ニケーションワー クショップに参加した 地域保健管理委員 会の数		0	0	0	0	9	13	14	14	15	18	15	18	116
	収入創出活動に関 わった地域保健管 理委員会の数		21	21	21	17	17	21	21	21	21	21	18	18	238
保健施設に 紹介された 地域住民の 数	地域保健ボランティ ア		54	75	76	66	131	161	115	160	140	164	134	190	1,466
	OTC 薬の売り手		40	69	65	36	75	102	98	139	123	161	118	139	1,165
	合計		94	144	141	102	206	263	213	299	263	325	252	329	2,631

添付 4. 基礎調査報告書

<https://shionogi.box.com/s/x89ca24hmm3mm718vpqyhekytd9ewri>

添付 5. 写真レポート

	
妊婦待機所の建設の様子	妊婦待機所のペインティングワークショップの様子
	
妊婦待機所のペインティングワークショップの様子	妊婦待機所の開所式でテープカットをする関係者
	
妊婦待機所の維持管理について話し合う地域住民	地域保健ボランティア、OTC 薬の売り手の研修でジョイセフエプロンの使い方を始動



地域保健ボランティアの家庭訪問の様子



ジョイセフスタッフの指導を受けながら家庭訪問でのフリップチャートを使った啓発活動をする地地域保健ボランティア



ジョイセフスタッフによる OTC 薬の売り手に対する定期的なモニタリングと指導の様子



医療従事者のママパパクラス実施に関する研修の様子



地域で開催されるママパパクラスの様子



地域で開催されるママパパクラスの様子